

西高のあゆみ～生徒会誌より～

最近、本校の生徒会誌『潮路』を改めて読み返してみました。そこには、「西高のあゆみ」が載っています。本校は「1984（昭和59）年4月1日に初代校長以下29名の職員が着任、4月10日、千葉県立磯辺高等学校において、開校式並びに第1回入学式が364名の新入生を迎え挙行された」と記録にあります。（同年8月27日に体育館竣工。10月17日創立記念日に校旗・体育館を披露。）今年で創立39年目を迎えました。現在私で15人目の校長となりますが、開校後10年間の校長の中には、私が他校で教諭だった時の校長がいます。懐かしく思うとともに縁の有難みを感じます。

さて、「西高のあゆみ」の中で注目するものがあります。それは、芸術鑑賞会と進路講演会です。

芸術鑑賞会は、1987（昭和62）年以降、本校の創立記念日10月17日に因み、毎年10月に実施されています。音楽・古典芸能・演劇を毎年ほぼ輪番で行っています。過去には、例えば音楽では歌劇団の合唱、オーケストラの演奏、ジャズ演奏、オルガンやピアノコンサート等が、古典芸能では落語を中心に狂言、津軽三味線、和太鼓等が、演劇では「ベニスの商人」、「レ・ミゼラブル」、「銀河鉄道の夜」等が上演されました。そして本年度は、この10月18日にミュージカル「真夏の夜の夢」を鑑賞しました。

進路講演会は、毎年11月に各界の著名人を講師にお迎えして行われています。進路講演会が始まったのは、芸術鑑賞会開始から10年後の1997（平成9）年です。残念ながら過去2年間は実施に至っていませんが、今年は12月に予定しています。

これまで様々な方々に講師を務めていただきました。肩書きのみ一部紹介させていただきます。教育学者、国語学者、数学者、動物研究家、アナウンサー、宇宙飛行士、ノーベル賞受賞者、五輪メダリスト、芥川賞作家、等々です。こうした第一線で活躍されている方々の講演を拝聴することは、本校生徒にとって大変貴重な機会となっているだけでなく、学校にとってその叡智は今後も大きな財産として受け継がれます。

芸術鑑賞会や進路講演会が果たしてきた役割は、本当に大きいものがあると強く感じます。

今まさに「芸術の秋」、「読書の秋」です。10月27日は読書週間の第1日目にちなむ「文字・活字文化の日」。11月3日は「文化の日」。芸術や文化に想いを寄せるには恰好の季節です。